

# 産科外来・病棟間の継続看護への一考察

—連絡票を使用して—

外来診療部

○岡 裕美・田中真津子・山下 千砂  
田所 裕子・関 ともよ・吉田佐奈恵  
小笠原須奈子・麻田千栄子・山村愛子  
水間美智子

## I はじめに

当院産科外来には、年間約 130 名の妊婦が訪れる。これらの妊婦の約90%が、種々の合併症や産科異常を伴っており、緊急入院をすることが多い。そこで外来での経過を、病棟に申し送ることができれば、産前産後を通して継続的な援助ができるのではないかと考えた。今回、妊産婦の背景や外来での経過を記載した連絡票を作成し病棟へ送付した。連絡票を送付後、病棟スタッフへのアンケート調査を行い、連絡票について検討したので報告する。

## II 研究方法

1. 期間：平成 2 年 6 月 15 日～10 月 31 日
2. 対象：研究期間中外来を訪れた妊婦  
病棟スタッフ
3. 連絡票の作成（資料 1）
4. 連絡票の使用方法
  - 1) ①～⑬妊婦が記載
  - 2) ⑭～⑯外来受診毎に看護婦が記載
  - 3) 連絡票を病棟へ送付
  - 4) ⑰は病棟スタッフが記載
  - 5) 分娩後病棟より外来へ返送
5. 病棟スタッフへのアンケート調査

## III 結 果

連絡票は総数 76、病棟への送付数 22、病棟よりの返送数 3 であった。

病棟スタッフに対するアンケート調査は、30 名中 23 名回収できた。

アンケート結果（資料 2）では、どのような時連絡票を利用したかについては、外来より送付された時 16 名、患者から連絡があった時 8 名、分娩時 2 名であった。そして、23 名中 22 名が、連絡票は役立ったと答えている。項目別にみると、ほとんどのスタッフが全項目について役立つものであると答えている。しかし、2 名が⑩のお産についての項目では、どんなお産であったか書かれていれば良いと答えて

いる。又、5名のものが⑯の今回の妊娠についての項目を、もっと詳しく書いてあれば良いと答えている。⑰の分娩時の状況を、記入しても良いかという質問についても、20名のスタッフが記入しても良いと答えている。

連絡票の送付は、分娩監視装置や胎盤機能検査等により観察を始める妊娠35週とした。送付後は、受診毎に病棟より取り寄せ、情報を追加し再度送付した。この送付時期は、病棟スタッフも21名が適当な時期であると答えているが、胎児の発育状況や前回の分娩時の状況等に応じて臨機応変にしてほしいとの理由から2名のものが適当でないとして答えている。⑱の指導内容の項目では、1名が妊娠経過は母子手帳より情報収集出来る為役に立たないと答えている。

#### Ⅳ 考 察

今回作成した連絡票は、事前に患者の情報が得られる、分娩予定者の予測ができる、リスクが予測できる、アナムネーゼ聴取に利用できる、という理由から役立つものであると評価されている。それは、これまで病棟ではいつどのような妊産婦が訪れるのか、ほとんど予測できない状態であった。しかし、連絡票により事前に情報を得ることで予測ができるようになった。又、迅速な対応を要求される中で、連絡票を活用し短時間に必要な情報が得られる為、この評価につながったと思われる。

連絡票の項目はほとんどが役立つものであり、病棟の必要とする情報を満たすことができているといえる。しかし、少数意見ではあるが、⑩のお産についての項目と、⑯の今回の妊娠についての項目では情報が不足している事を指摘されている。⑯については、治療有の場合は、右側の空白部分にその内容を記載するようにしているが、外来での記載方法が統一されていなかった為、詳しく記載できているものと治療の有無だけ記載してあるものがあったので、このように評価されたと考えられる。

今後、前回の妊娠・分娩の状況及び今回の妊娠について詳しく記載する事で、情報として役立ち病棟スタッフの要望に答えられるものになると考える。

送付時期は、アンケートでも指摘されているように、前回や今回の妊娠中の状況に応じて、妊娠35週以前でも送付する事で、より有効な情報として利用されるようになると思われる。

北里氏は、院内継続看護について、「外来で得られた情報及び、それに基づく看護判断が、適確に病棟へ伝達されなければならない。又、その情報と判断が病棟で要求するものを十分含み、しかも外来が病棟に伝えたい点が簡明かつ適切に伝達される事である」とのべている。1人の妊産婦を継続的に看護してゆくためには、妊娠期間中外来でどのように援助したかその経過を病棟へ伝え、入院中の情報を病棟より外来へ伝えてもらうことが必要であると考えられる。

アンケート結果より今回の連絡票は、病棟が要求する情報を含んでいると考える。しかし外来で得られた情報に基づく看護判断が記載されていたとはいえない。今後は⑱の指導内容の部分看護判断を含めた指導内容が記載できるよう検討してゆく必要があると考える。

⑰の分娩時の状況については、産後の受診時に利用する様にしているが、分娩時の状況に加えて母子の健康状態、母親の精神状態など入院中の問題も含めて記載してもらえるようになれば、それに適した言葉がけや指導を行ってゆけると思われる。この様に外来での指導や、入院中の情報を充実させることで妊娠・分娩・産褥と一貫した指導・援助ができ、継続看護へとつながるのではないかと考える。

## V おわりに

妊産婦に対し、産前・産後を通して一貫した指導・援助を行うためには、外来と病棟の情報交換が必要であると考える。今回連絡票を作成し使用したことで、継続看護への手掛かりとする事が出来た。又、対象妊産婦が、病棟へ連絡した時、病棟スタッフが自分を知ってくれており、安心してお産に望めたという声も聞かれ、連絡票を使用することは妊産婦とスタッフの接点となった。それは私達にとって励みになるとともに、適確な情報を送る責任を感じさせられた。

今後、更に連絡票の検討を重ねるとともに紙面上だけでなく、外来と病棟で合同カンファレンス等を行うことにより相互の連携を深めて行きたい。

## 引用・参考文献

- 1) 高橋久美子：産科と新生児医療室との連携のあり方，第18回日本看護学会収録，1987．
- 2) 高林香代子：当院における継続看護の経過報告，日本看護協会出版会。
- 3) 佐藤和子：業務分析からみた外来看護の現状と今後の課題，看護学雑誌，1966-3．
- 4) 東サトエ：継続看護の一教育方法，看護教育，1988-11．
- 5) 北里宏子：連絡票使用による病棟・外来の連携，看護MOOK，№14，1985．

資料 1.

貴女のお産に役立てたいと思いますので下記の内容についてご記入下さい。

- ① 分娩予定日      年      月      日
- ② 申し送り日      年      月      日

③氏名	才	④住所	町		
⑤夫氏名	才	⑥病院までの所要時間	時間      分		
⑦検査 血液型      型 Rh      HB抗原(+-)      梅毒反応(+-)      ATL(+-)					
⑧(      )婦人科より紹介      (      )より里帰り分娩					
⑨今までに病気になるたり、手術を受けたことがありますか。					
⑩お産について書いて下さい。		今までのお産で何か異常がありましたか。			
初産	経産	回	(例) 切迫流早産, 帝王切開, 妊娠中毒症など		
	妊娠	回			
	流産	回			
	人口妊娠中絶	回			
	早産	回			
	分娩	回			
⑪現在常用しているものがありますか？					
酒	1日	合	開始      才      中止      才		
タバコ	1日	本	開始      才      中止      才		
くすり					
⑫家族構成		⑬あなたの血のつながっている方で下記の病気になった方はいますか？			
父	- 本人 -	癌      肝疾患 心疾患      腎疾患 糖尿病      アレルギー 高血圧      結核 喘息      その他 精神病 母系の妊娠分娩産後の異常の有無			
母					
父	- 夫 -				
母					
同居者				人	

⑭母親学級は受講しましたか？ 受講したところは○をして下さい。

第1講座      第2講座      第3講座      第4講座

⑮月日	週数	医師から何か指導されましたか？
-----	----	-----------------

⑯今回の妊娠について

内分泌治療	有無	有
切迫流産治療	無	有
妊娠悪阻治療	無	有
切迫早産治療	無	有
貧血治療	無	有
妊娠中毒症	{ BP 尿蛋白 浮腫	
その他		

⑰分娩日                      年    月    日

お産の方法      正常      異常      ( 帝王切開, 吸引分娩, 鉗子分娩 )

児の状態      性別    男 女      (      ) ♀    正常    異常 (      )

母親の状態

お手数ですが、分娩後、外来に回して下さい。

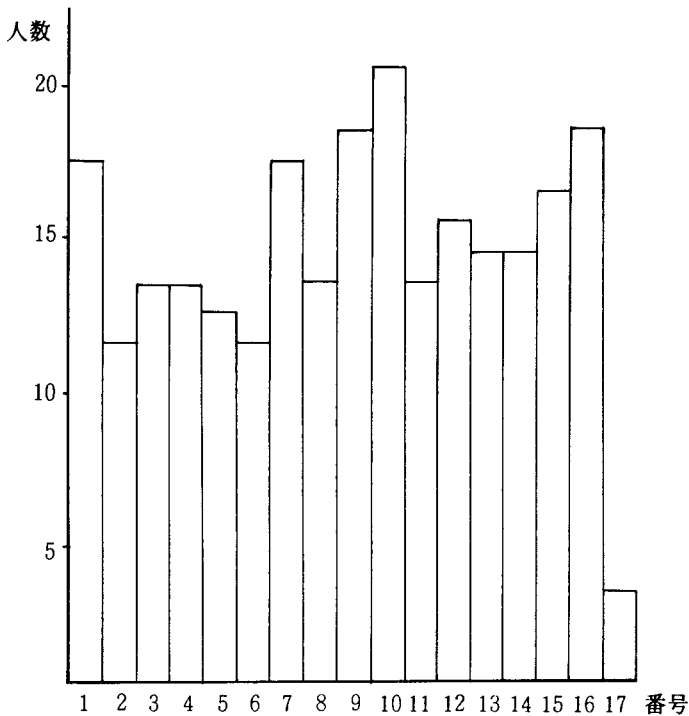
## 資料 2.

この度、私達は産科の患者について継続看護を目的とし妊婦の情報を送付させて頂きました。  
お忙しいところ申し訳ありませんが、下記にお答えください。

1. 申し送り用紙を、どういう時に見て利用されましたか。いずれかに○をして下さい。
  - a. 患者から連絡があった時に見た。 ( 8 )
  - b. 外来から送られてきた時に見た。 ( 16 )
  - c. 分娩時に見た。 ( 2 )
  - d. 見なかった。 ( 2 )
2. 申し送り用紙は役にたったと思いますか。
  - a. はい ( 22 ) 理由 ( )
  - b. いいえ ( 1 ) 理由 ( )
3. 別紙より下記の質問に必要な番号を拾い出して下さい。
  - a. どの項目が役に立ったと思われますか。  
番号 ( )  
理由 ( )
  - b. どの項目が役に立たなかったと思われますか。  
番号 ( 15 2 10 ) 特になし ( 16 )  
理由 ( ) 記載なし ( 4 )
  - c. もっと詳しく記入してあればよいと思われた項目は？  
番号 ( 16 12 ) 特になし ( 3 )  
理由 ( ) 記載なし ( 8 )
4. 申し送り用紙の項目以外に、加えればよいと思われた項目は(情報)ありませんか。  
なし ( 16 )
5. 送付時期について、いずれかに○をして下さい。
  - a. 35週以上は適当である。 ( 21 )
  - b. " 適当でない。 ( 2 )
  - c. bに○をされた方は何週が適当と思われますか。  
( 30 ) 週 理由 ( )
6. 用紙を送付する事について、いずれかに○をして下さい。
  - a. 続けた方がよい ( 22 )
  - b. 送付しなくてもよい
  - c. どちらでもよい
7. 別紙より⑦に記入して頂くことについて、いずれかに○をして下さい。
  - a. 記入してもよい ( 20 )
  - b. 記入したくない 理由 ( )
  - c. その他 ( )

- 2-a 理由 リスクが予測出来る  
 アナムネ聴取に利用  
 分娩予定者の予測ができる  
 事前に患者の情報が得られる

3-a 番号



- 3-a 理由 緊急入院時、情報収集に役立った  
 アナムネ聴取時に活用できる  
 患者のリスクがわかる  
 患者から電話があった時どういう人かわかり予測できる  
 夜勤時、受け持ちの割り振りができ、慌てなくてすむ

- 3-b 理由 本人の情報はあやふや、母子手帳などで収集できる  
 あまり関係ない  
 役にたっているが、どんなお産か書いていれば良い  
 何週、子供の体重、自然分娩か？

- 5-c 理由 前回低体重児を出産した人や、IUGRの人は少し早めに送付